

淀川水系流域委員会殿

2008. 5. 21

佐川克弘

流域委員会は河川管理者に「京都府の水源計画」の見直しを提言すべし

京都府はH16. 10の水需要予測において、H32に需要はピークに達し、府営水道の一日最高給水量は171, 800m³となると致しました。その予測に対して私は予測値を143, 200m³と致しました。(5. 19付意見書「京都府の水需要予測は過大です」参照)

それでは水源計画ではどうなるでしょうか。

ここで需要予測と同様に京都府の計画と私の対案をお示します。両者の比較は添付別紙のとおりです。(一般に水源は1秒当たりの水量で表示しますが、この単位に馴染みの少ない委員もおられると思いますので、別紙は単位をm³/日としました。また水量はすべて浄水ベースです。)

以下に両者の相違点をご説明いたします。

1. 確保済み水源、施設能力について

(A) つまり京都府の合計は164, 800m³ (B)は174, 400m³なので両者の差は9, 600m³ありますが、これは浄水ロス率の差です。京都府の浄水ロス率の実態は解明されておりませんが、公式には7. 4%とされており。しかし私は浄水ロス率を2%としました。それは原水の水質が本質的に同じと見なすことが出来る大阪府営水道がロス率1. 1%を達成しているの、仮に現状の京都府営水道が2%以上のロス率であってもH32までに企業努力で2%を達成すべきだと考えたからです。

※本件については5. 20付意見書「疑わしい京都府営水道の浄水ロス率」を参照してください。

2. 給水能力

たとえば宇治浄水場のように施設能力が大きくても、確保済み水源(水利権)以上に給水できません。その逆が木津と乙訓浄水場です。例えば木津浄水場の場合確保されている水源は76, 200m³ですが施設能力が50, 800m³なので、給水能力は50, 800m³となり、両者の差25, 400m³は淀川経由で大阪湾にたれ流されているのです。同じように桂川には23, 700m³の水が利用されることなく、たれ流されていることになります。

3. H32需要予測量

京都府は171, 800m³としましたが、私は143, 200m³と考えております。5. 19付意見書「京都府の水需要予測は過大です」を参照してください。

4. 新水源計画

京都府は木津川・桂川に毎日たれ流している49, 100m³を放置したまま、新たに天ヶ瀬再開発に参画して(京都府ロス率ベースで)48, 000m³/日の水利権を獲得しようとしています。当然巨額の資金負担が発生することになります。その

ツケは、それぞれの市町の水道料金に紛れ込んで回収されるか、市町の税金で補填されることとなるでしょう（仮に京都府の一般財源を使ってもそれは府民税ですから、府民にとっては同じことです）。いづれにしても府民にとっては数十億円もの新たな負担が生じることになるでしょう。

なお京都府の計画ではG欄（E-D）に示したようにH32には5,400m³不足することになり、これが本当ならH32までに木津または乙訓浄水場の施設能力を拡充する必要があることになり、当然膨大な投資をしなければならなくなりますから、ここでも府民に対して新たな負担を強いることになります。

私はH32需要量を143,200m³と考えており、木津と乙訓の未利用水利権を、琵琶湖開発の水利権を獲得している水利使用者（大阪市や大阪府など）と交換することによって天ヶ瀬再開発から撤退することが可能となると考えます。それでも京都府は31,200m³も水余りとなるでしょう。（仮に京都府の“水増し予測”を適用しても、需要量171,800m³に対して新給水能力は174,400m³ですから、需要のピークをクリアでることになります。）

いづれにしましても、流域委員会は京都府の水源計画の見直しを提言すべきです。

以上

(A) 京都府の水資源計画

単位：m³/日

	宇治浄水場	木津浄水場	乙訓浄水場	合 計
A. 確保済み水源	24,000	72,000	68,800	164,800
B. 施設能力	96,000	48,000	46,000	190,000
C. 給水能力	24,000	48,000	46,000	118,000
D. H32需要予測量	87,500	38,300	46,000	171,800
E. 新水源計画	72,000	72,000	68,800	212,800
F. 新給水能力	72,000	48,000	46,000	166,000
G. (F-D)	▲15,500	9,700	0	▲5,800
H. 未利用水源	0	24,000	22,800	46,800

(B) 上記計画に対する佐川の対案

	宇治浄水場	木津浄水場	乙訓浄水場	合 計
A. 確保済み水源	25,400	76,200	72,800	174,400
B. 施設能力	101,600	50,800	49,100	201,500
C. 給水能力	25,400	50,800	49,100	125,300
D. H32需要予測量	76,700	29,300	37,200	143,200
E. 新水源計画	74,500	50,800	49,100	174,400
F. 新給水能力	74,500	50,800	49,100	174,400
G. (F-D)	▲2,200	21,500	11,900	31,200
H. 未利用水源	0	0	0	0

備考：1. 浄水ロス率を(A)は7.4%、(B)は2%にて算出した。

2. 新水源として(A)は天ヶ瀬再開発に参画し48,000m³/日の水利権の獲得を予定。

(B)は木津および乙訓の未利用水利権の活用を目指す。

3. 算定結果から(A)はH32までに木津または乙訓の施設能力UPのため新規に投資しなければならない。(B)なら新規投資は不要である。

なお3浄水場の連絡管はH21年度に完成する予定。完成後は連絡管により浄水場間の水融通が可能となる。